

安全・良質・優しいこころの医療を、
いつでも どこでも 誰にでも。

ぬくもり

地方独立行政法人静岡県立病院機構
静岡県立こころの医療センター

最近力を入れている事

その1 クロザピン治療

日本では2009年より通常の抗精神病薬に反応しない、または副作用のために十分な薬物治療ができない統合失調症の方にクロザピンが使用できるようになりました。当センターでも2011年6月から導入開始しています。現在まで23名が登録しており、内17名（外来通院7名、入院中10名）が服薬を継続していますが、服薬中の半数以上が2014年になって導入しているため、急増していると言えます。クロザピンは無顆粒球症などの重い副作用が起こる可能性もありますが、効果もあり利点多い薬で、その事は症例数が増えてきて実感されるところです。クロザピンは自立度や就業率、治療継続性を増加させ、再入院率や自殺率を低下させるという報告があります。今後も多職種スタッフとの連携の下、良質で適切な医療の提供に努めたいと思います。

その2 ココロンの普及・啓発

数年前に当センターのマスコットに任命された「ココロン」をご存知でしょうか？

ゆるキャラ的な愛らしさがあり、陶器人形が作られクリアファイルにもなっています。しかし、アピール不足もあってか知名度が低いようです。このため今後「ココロン・プロジェクト」を立ち上げ、皆さんに可愛がってもらえるような企画を考えていきたいと思います。夢はいつか「ゆるキャラグランプリ 病院部門」に立候補することです！？

医療部長

村上 牧子



心

理

よ

い



私たちは「自分のことは自分で対処出来るのではないか」という患者さんの想いを支え、そういったセルフヘルプそのものを患者さんと共に同じ方向を見つめながら考えています。

当院が力を入れているものの一つに「心理教育」があります。心理教育の目的には「主体的」という言葉が入っています。これは社会から求められ、さらに変わりゆく精神科医療の在り方の一つと考えています。この「主体的」という言葉に表されるように「その人の生き方はその人自身が考え、そして決めていくことができる」ということを、私たち心理士も忘れることなく支援しています。これは心理検査についても同じことが言えます。

話は変わりますが、医療観察法には各病院が相互に評価や技術的助言をおこない、医療の水準向上を図る制度があります。その際、精神科医療に長年携わってこられた心理士の方からアドバイスをいただく機会がありました。その方は今でも自ら論文にあたり、分かったことをまとめ、そして実践に取り入れ続けられていることを知りました。心理士として駆け出しの頃は、目の前の患者さんの生きやすさとは何かということだけを考えていたと仰っていました。視点は当時から常に目の前の相手に寄り添っていたこと、そして今でも患者さん主体であるというその眼差しは少しも変わっていないことに気付かされました。

このように私たちもまずはその人のことを考え、そして私たち自身も日々の努力を怠ることなく取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

統合失調症患者の心理教育について

当院では統合失調症と診断された患者さん向けに、心理教育プログラムを実施しています。

精神疾患における「疾患の受容」は、それ自体でも非常に困難かつ複雑なものです。

心理教育はこのように受容しにくい問題を持つ人たちを対象に、療養生活に必要な知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら行います。

病気によって生じる問題や困難に対し、対処や工夫とともに考え、共感することによって、再発を防ぎ、ストレスに対してうまく対応できるようになるのが目標です。

一見難しそうですが、実際は患者さん、スタッフが複数名で自由に語り合う場を提供しています。どうぞお気軽にご参加ください。

なお、これまで入院患者さん、デイケア・作業療法通所者限定でしたが、平成27年1月からは外来通院中の患者さんも利用できるようになりました。

毎週水曜日の午後、1時間程度で全4回のプログラムを実施しています。

参加を御希望の方は、まず担当の主治医にご相談下さい。

医師紹介

今年10月より赴任致しました後期研修医です。当院は、自らが主体的に学ぶ姿勢さえあれば、何でも相談できて、非常に多くの事柄を短期間で学べる精神科単科病院です。緊急措置入院や司法鑑定入院を引き受けるとともに、クロザリルやm-ECTによる治療から心理検査、薬剤なし栄養指導、デイケアや精神作業療法まで施行できる県下きっての砦であり、あらゆる精神科疾患に総力戦で対応できることが研修病院としての魅力です。県立総合病院の内科・外科医師、歯科医師、在宅支援を行う看護師、地域連携を推進する精神保健福祉士、何でも相談できる臨床検査技師なし放射線技師、そして病院機能の中心部を支える総務・クリーク・システム・メンテナンス・警備・清掃の方々等もあり、大変活気ある病院もあります。ベストを尽くして行きたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。



石山慶太

院内感染防止活動の紹介

感染防止委員会・リンクナース部会



『感染対策は、
手洗いに始まり、
手洗いに終わる！』

院内感染対策チーム

院内の感染制御を目的とした組織として、感染防止対策委員会とリンクナース部会があります。院内感染防止委員会では、各部門からの報告や院内の感染対策方針が審議されるのに対し、リンクナース部会では、現場の感染対策についての諸問題へ迅速に介入して解決を図るための活動を実施しています。

①感染の発生予防・防止 ②感染発生時の発生源の調査、拡散防止、治療 ③再発防止の三原則を病院の全ての部門が協力して実施することにより初めて有効となるため、院内感染防止対策委員会が中心となりリンクナース部会と協力し合い効果的・組織的な活動をするよう努めています。

感染防止活動内容

1. 院内感染防止対策委員会・リンクナース部会の定期開催
2. 抗菌薬適正使用、耐性菌の検出状況の確認
3. サーベイランスによる分析・フィードバック
4. 感染ラウンド
5. 感染防止マニュアルの整備
6. 病院職員に対する感染対策の周知
7. 全職員に対して、感染防止対策に関する研究会の開催
8. 院内感染発生時の対応 など



院内感染ラウンドの様子：毎月リンクナースがラウンドしています



院内感染防止研修の様子：院内全職員対象



ICD（インフェクションコントロールドクター）の鈴木健一先生に相談し指導していただき活動しています。

病院には免疫力の低下した患者さんや高齢の方も多く入院しておられます。入院によって、新たに感染症をもらうことは本来の必要な治療以外の治療が必要になってしまい、患者さんには大変な不利益をもたらします。

患者さんと職員を感染から守るために、院内感染対策の実践を継続していきます。



『精神科救急情報ダイヤル』のご案内

「精神科救急情報ダイヤル」は、24時間・365日精神科救急に関する情報提供及び相談に対応するダイヤルです。

◆精神科医療機関に緊急で受診したいとき、当番病院を案内します。

◆精神科救急時の対応について相談に応じます。

◆静岡県内の精神科医療機関の案内をします。

◆精神科専門スタッフが対応します。

*かかりつけ病院がある場合は、まずかかりつけ病院に御相談ください。

下記電話番号までご連絡ください。

電話番号 **054-253-9905**

診 療 の ご 案 内

一般外来

外来受付	午前8時30分～午前11時（予約制）
診療日	月曜日から金曜日まで
休診日	土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始
診療科	精神科 その他当センターを利用する方々の為の 内科・外科・歯科外来があります。

専門外来

<60歳以上の方>

老年期のこころの悩みや物忘れなど、老年期特有のこころの専門外来です。

◆一般外来・専門外来とも、全て予約制となっています。予めお電話でご予約下さい。

予約受付日：月曜日～金曜日

（祝祭日を除く）

予約受付時間：午前9時～午後4時

受付先：よろず相談スタッフ

電話：054(271)1166

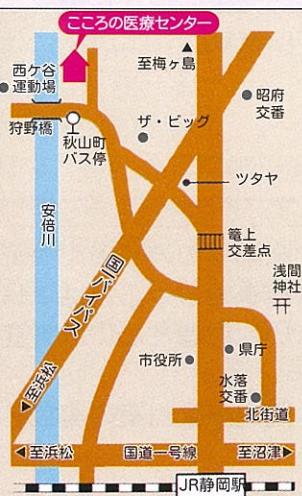
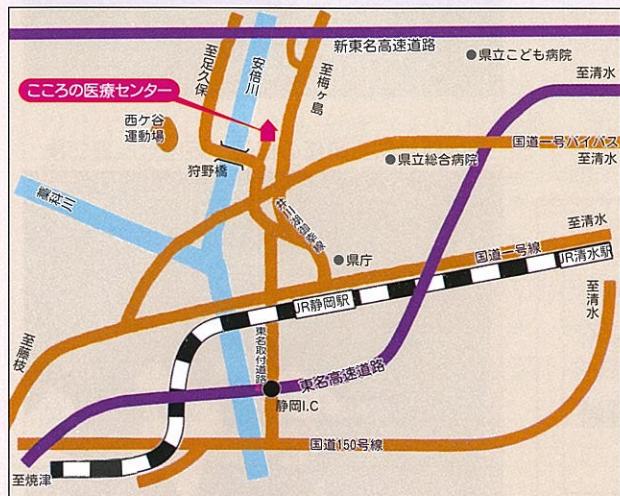
◆現在、他の医療機関に通院されている方は紹介状をお持ちください。

外 来 担 当 表

診察室	月	火	水	木	金
第1	新患	新患	新患	新患	新患
第2	小倉	五條	小倉	鈴木	鈴木
第3	高橋	大橋	渡邊	大橋	五條
第4	救急	救急	救急	救急	救急
第5	石山	村上直	小出	村上直	小出
第6	梶塚	梶塚	村上牧	高橋	村上牧
第7		黄仲田	仲田	黄	

※諸事情により変更になる場合があります。

病院周辺図及び交通のご案内



交通のご案内

バス/美和大谷線 静岡駅より約25分
(静岡駅前9番のりば 美和、足久保団地方面行き秋山町下車、徒歩5分)

くるま/静岡駅より約15分

地方独立行政法人 静岡県立病院機構
静岡県立こころの医療センター

財日本医療機能評価機構認定病院
〒420-0949 静岡市葵区与一4丁目1-1
電話：054-271-1135（代表）
FAX：054-251-6584
URL：<http://www.shizuoka-pho.jp/kokoro/>